

## 出光美術館の軌跡 ここからさきへⅣ 伴大納言絵巻から若冲へ

出光美術館（丸の内3） 2024.09.07～10.20

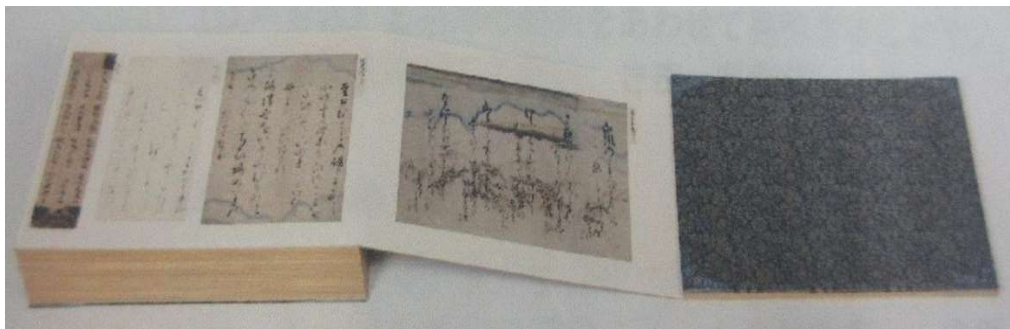


本展では、当館の調査・研究活動と蒐集活動の歩みを振り返りながら、「やまと絵、仏画、水墨画、文人画、風俗画、琳派」などの作品が展示されている。

伊藤若冲の作品《鳥獣花木図屏風》は、チラシ右の白象図。

<本展の見どころ>

当館の「国宝2件」が実に18年ぶりのそろい踏み！で注目されている。



古筆手鑑 《見努世友》 奈良・室町時代

本書は、古筆家の台帳であった可能性があり、伝聖武天皇筆「大聖武（やまと切り）」をはじめ、数多くの名物が含まれている。



《伴大納言絵巻》（上巻部分） 12世紀・平安時代 紙本着色

この絵巻は、866（貞観8）年3月10日に起きた応天門の炎上をめぐる大納言・伴善男の陰謀で、その露見と失脚の物語が生き生きと描かれている。

群像の表現に存分に発揮された精妙な描写力、色と形の見事な調和と対比、緩急を利かせた巧みなストーリー展開はひととき魅力的な作品である。